子ども虐待を防ぐ養育者支援:

総合知が示す

孤立と過剰な負担を防ぐ家族支援政策

理化学研究所 脳神経科学研究センター
黒田公美・白石優子・宮澤絵里

https://www.jst.go.jp/ristex/funding/files/JST_1115110_18071117_kuroda_PP.pdf
H30 科学技術イノベーション政策のための科学 「家族支援と少子化対策」

1. イントロ・哺乳動物の子育てと子の発達
2. 行動神経科学から見た児童虐待
3. 児童虐待事件の要因研究と支援のポイント
4. 現代日本の子育て環境の問題
5. まとめと提言

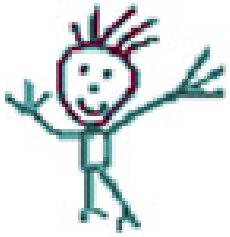
哺乳類は子育てする動物

2億2千万年以上前～　母親による子育て

親
(主要な養育者)

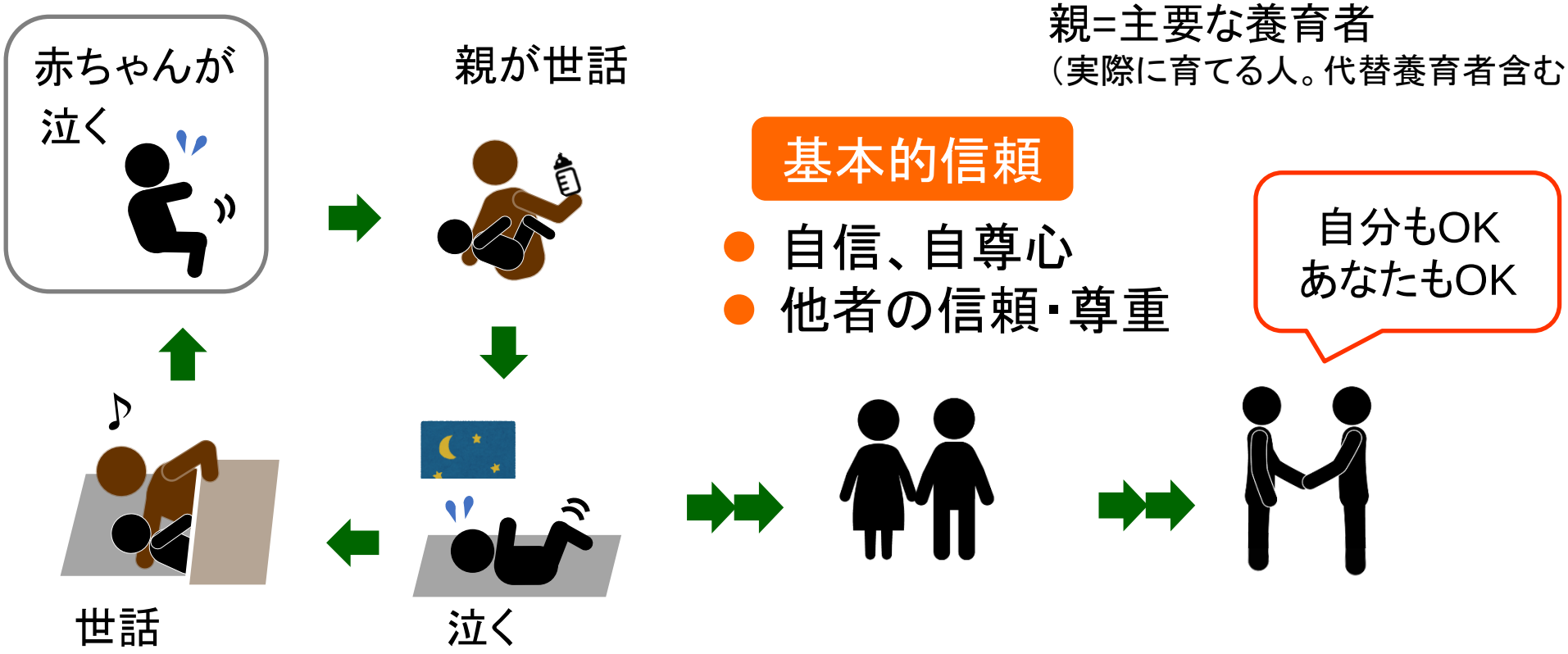
養育

- 食事
- 清潔
- 危険から守る
- 巣作り
- 教育（社会性、生きる知恵..）



子

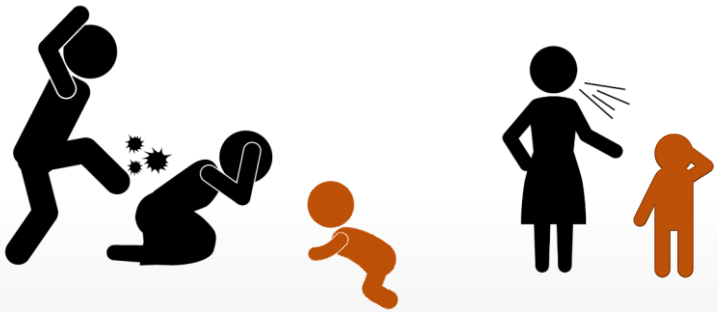
子のこころの健康と社会性は
安心できる親子関係で育まれる



親子関係が子の将来に及ぼす影響

ネグレクト、虐待などのため安心して暮らせない

基本的信頼の不足



成人後、孤立や暴力のリスク ↑

- 不安↑　不信⇒受援力↓
- 偏った社会性の学習（暴力など）

いじめ、メンタルヘルス問題、DV, 虐待・・

家庭を超え社会の安全と生産性に影響

R2法務省少年統計　鑑別所新収容者の生育家庭の状況

保護者	実父母	実母のみ		実父のみ	
鑑別所新収容者　男	40.15%	35.62%	~6倍	8.61%	~10倍
鑑別所新収容者　女	30.51%	37.29%		6.40%	

未成年のいる世帯一般	母子のみ世帯	6%
	父子のみ世帯	0.7%

＊国民生活基礎調査R3、全国ひとり親世帯等調査

	虐待あり
鑑別所新収容者　男	30.40%
鑑別所新収容者　女	53.80%

不安定な養育環境や被虐待が
鑑別所入所のリスク（オッズ比）を高める

少年鑑別所・刑務所の新収容者の学歴 （法務省統計R2）

	精神障害なし	高卒未満
鑑別所新収容者　男	77.3%	78.1%
鑑別所新収容者　女	67.9%	75.6%

一般15-19才
高卒未満
14.9%
15.3%

国勢調査2020、在学除外

男子	鑑別	一般
高卒未満	2366	7450
高卒以上	664	42550
女子		
高卒未満	235	4590
高卒以上	76	25410

最終学歴が高卒未満（になる生育歴）の、
鑑別入所へのオッズ比　[95%信頼区間]
（在学中を除外、一般は国勢調査15-19才）

20.4　[18.6, 22.3]
17.1　[13.2, 22.2]

新受刑者の60%超が高校卒業未満
知的障害なし(CAPAS≧69)　～ 80%

一般人口(20代）
高卒未満　国勢調査2020
（男）4.5%　（女）3.4%　　在学除外

鑑別所・刑務所には「能力に見合わない低学歴」の人が多い

――家庭環境の影響が大きかった可能性大

哺乳類の子は、特定の少数の養育者に育てられる必要がある

- 愛着行動：特定の養育者を覚え、慕い、関係を維持しようとする子どもの本能的行動
- 小さい子ほど、養育者の頻繁な変更や、身体・語り掛けなどの直接接触がないかかわりでは安心できない

⇒完全な施設養育は大きなストレス

・ホスピタリズム（親が同室でない入院）

・キブツ、人民公社　・・・

大規模化・バーチャルなどの効率化には適応できない！

＊一日12時間程度までの保育は発達に影響ないことは実証されている。

子育ち・子育てを支援するには「総合知」が必要

豊かで安心な社会

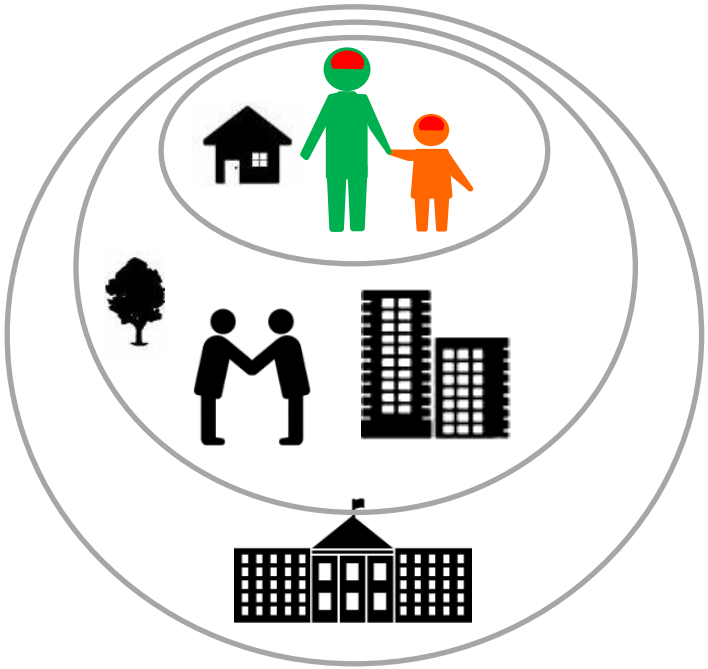
子どもの心身と社会性の発達

親もだいたい満足できる生活

親子支援の**科学**技術と**社会**技術

RISTEX

文理協働研究



遺伝子

脳

個人の行動

人間関係

地域・文化

行政

法制度

ミクロ

マクロ

自然科学

社会科学

神経生物学

精神医学

社会学

経済学

法学

「子ども虐待を防ぐ養育者支援」岩崎学術出版 2022

序

第1部　子ども虐待防止の科学

第1章　子ども虐待を防ぐ養育者支援

第2章　子育て行動の進化的基盤と脳内機構

第2部　深刻な子ども虐待の生物-心理-社会的要因

第3章　重度子ども虐待I――受刑中養育者の調査

第4章　重度子ども虐待Ⅱ――攻撃性

第3部　ライフサイクルと子育て困難

第5章　保育所で――寄り添うサポートによるリスク低減

第6章　小中学校で――貧困・ひとり親・外国ルーツ・孤立

第7章　貧困・児童虐待・ネグレクトの相互関係

第4部　海外に学ぶ子ども虐待の養育者支援

第8章　イギリスに学ぶ家族支援

第9章　フランスの児童保護制度に見る養育者支援とその課題

第10章　児童相談所での養育者支援，アメリカに学ぶ家庭支援

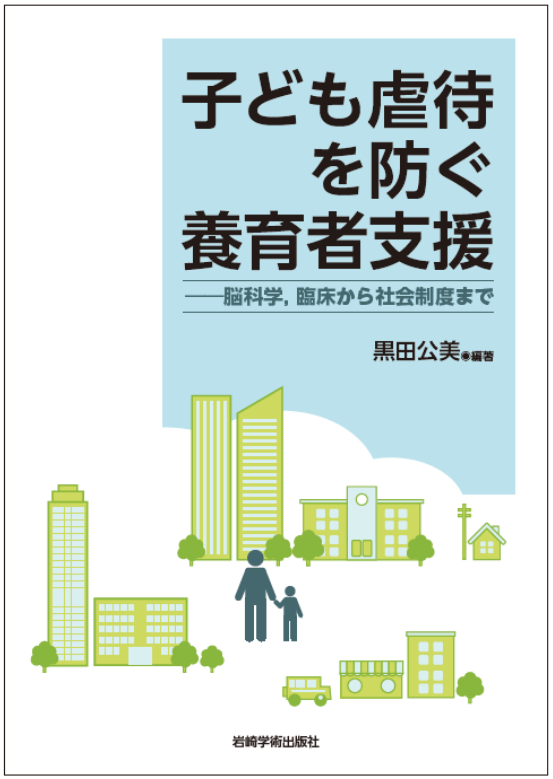
第5部　日本の養育者支援の制度と実践，現在と未来

第11章　要保護児童対策地域協議会

第12章　子ども虐待と親権

第13章　子どもの利益をまもる法のしくみ

第14章　養育者支援プログラム――子ども・自分とのつきあい方



RISTEX

1. イントロ・哺乳動物の子育てと子の発達
2. 行動神経科学から見た児童虐待
3. 児童虐待事件の要因研究と支援のポイント
4. 現代日本の子育て環境の問題
5. まとめと提言

虐待の要因分析

子どもの虐待はどんな時に起こりやすい？

⇒　他の哺乳動物で虐待に相当する行動が起きる要因とある程度似ているのでは？

- 子への攻撃、子殺し　（身体的虐待）
- 養育放棄　（ネグレクト）

⇒　行動神経科学的分析

Kuroda et al, 2020

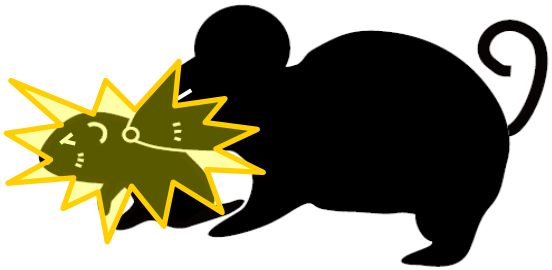
https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/pcn.13096

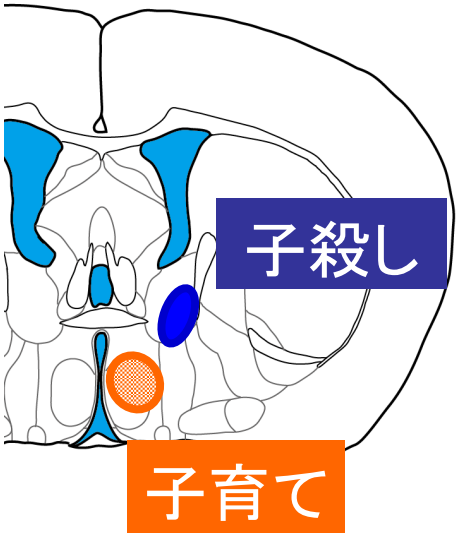
動物にもある”子ども虐待”のパターン①

現在の環境に適応するための虐待や養育放棄　（脳は正常）

1. 栄養不足、病気などのストレス
2. 子側要因
3. 若年妊娠・初産
4. 社会的文脈

非血縁オスマウスによる子の攻撃





Tachikawa, 2013; Tsuneoka, 2015; Yoshihara 2021

動物にもある”子ども虐待”のパターン②

生育環境が不適切（適切な社会経験が不足）⇒社会性↓

＊霊長類は動物園などで社会的に孤立して育つと、
成長してもうまく子育てできない

(Harlow, 1958)

∵　霊長類の子育てや社会行動は、

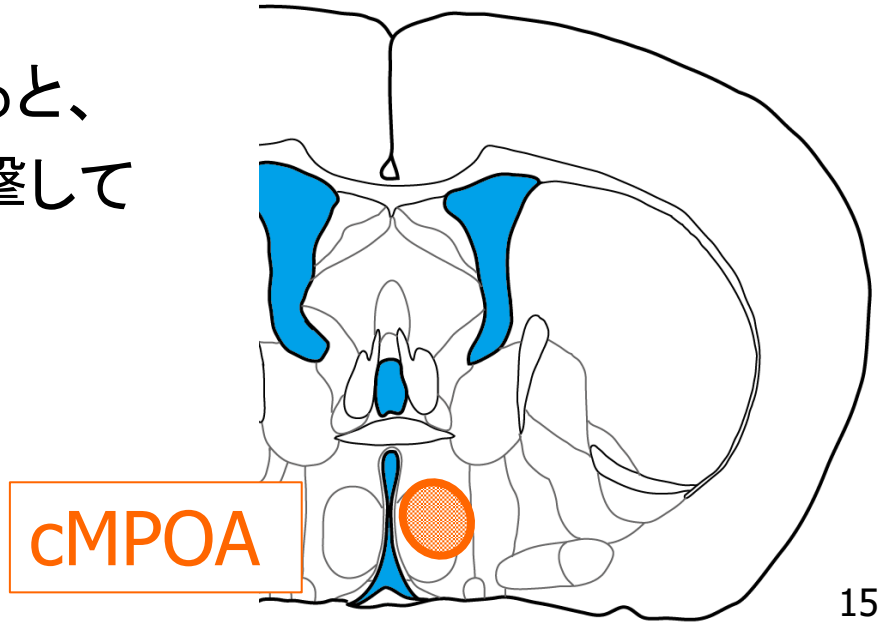
社会の中で育つ過程で学習される。

動物にもある”子ども虐待”のパターン③

子育てや攻撃性の制御に必要な脳内回路の障害

- 子育て中枢cMPOA　Tsuneoka, 2013; Yoshihara 2021
- 身の危険を察知し反応する扁桃体Amygdala
- 共感性・理性を司る前頭前野PFC　Anderson 1999

これらの脳部位の働きに問題があると、
子育てしなかったり、実の子でも攻撃して
しまうことがある



1. イントロ・哺乳動物の子育てと子の発達
2. 行動神経科学から見た児童虐待
3. 児童虐待事件の要因研究と支援のポイント
4. 現代日本の子育て環境の問題
5. まとめと提言

動物で虐待が起こりやすい要因は、

人間にも共通？

哺乳類の行動神経科学の枠組みを用いて
ヒトの重度子育て困難発生要因を網羅的に分析

＜児童虐待刑事事件の加害養育者への質問紙調査＞　400以上の項目

① 子育て時の環境　　貧困、DV、複雑な家族構成、孤育て、子の育てにくさ

② 小児期逆境体験　　被虐待歴、保護者変更、実父母不在、最終学歴

③ 神経生物学的要因　物質嗜癖（薬物・酒）、精神疾患、頭部外傷

（分類は非排他的）

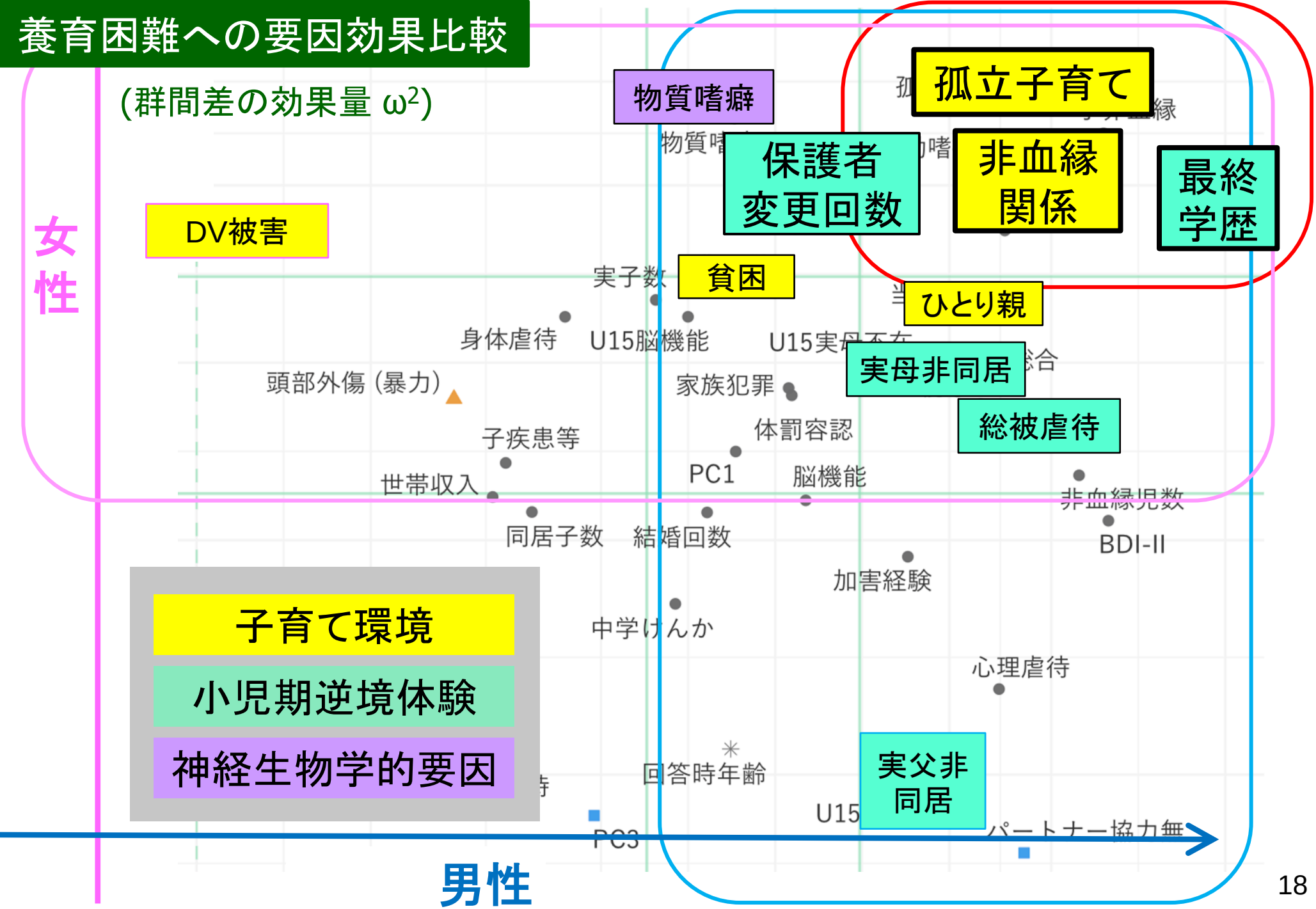
国立研究開発法人 科学技術振興機構　RISTEX

JST Stipolicy　科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム
「家族を支援し少子化に対応する社会システム構築のための行動科学的根拠に基づく政策提言」 2018－2021

JST RISTEX　安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築
「養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステムの構築」 2015－2018

養育困難への要因効果比較

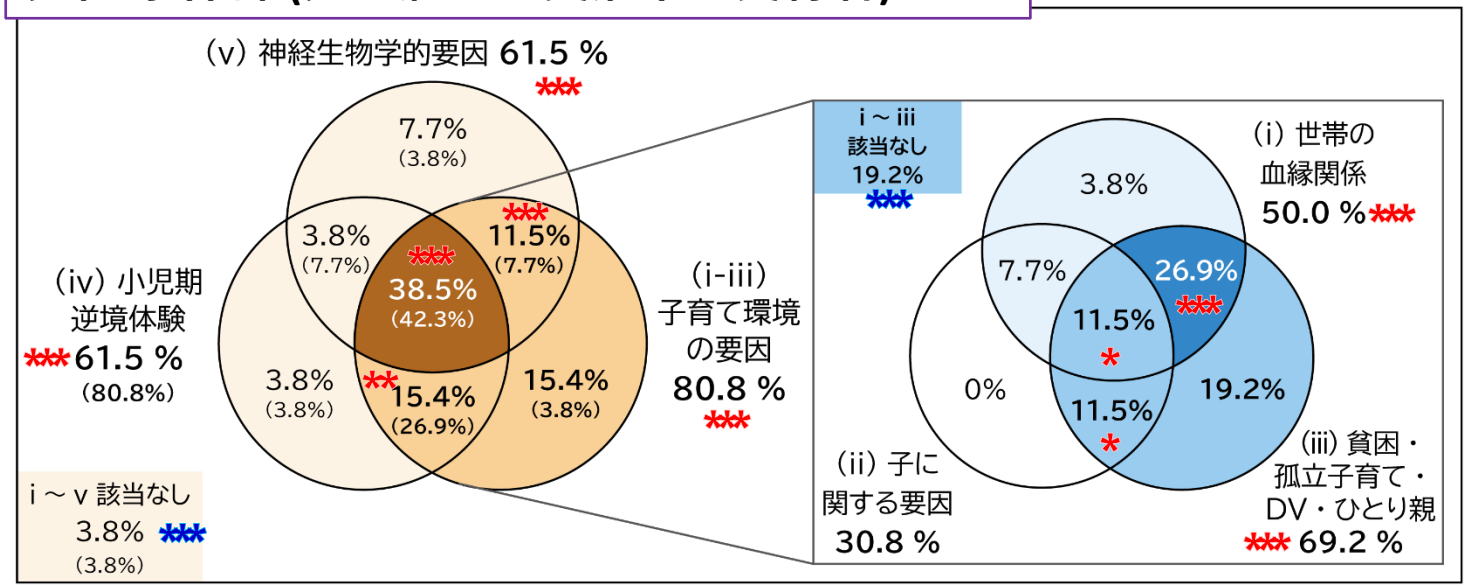
(群間差の効果量 ω^2)



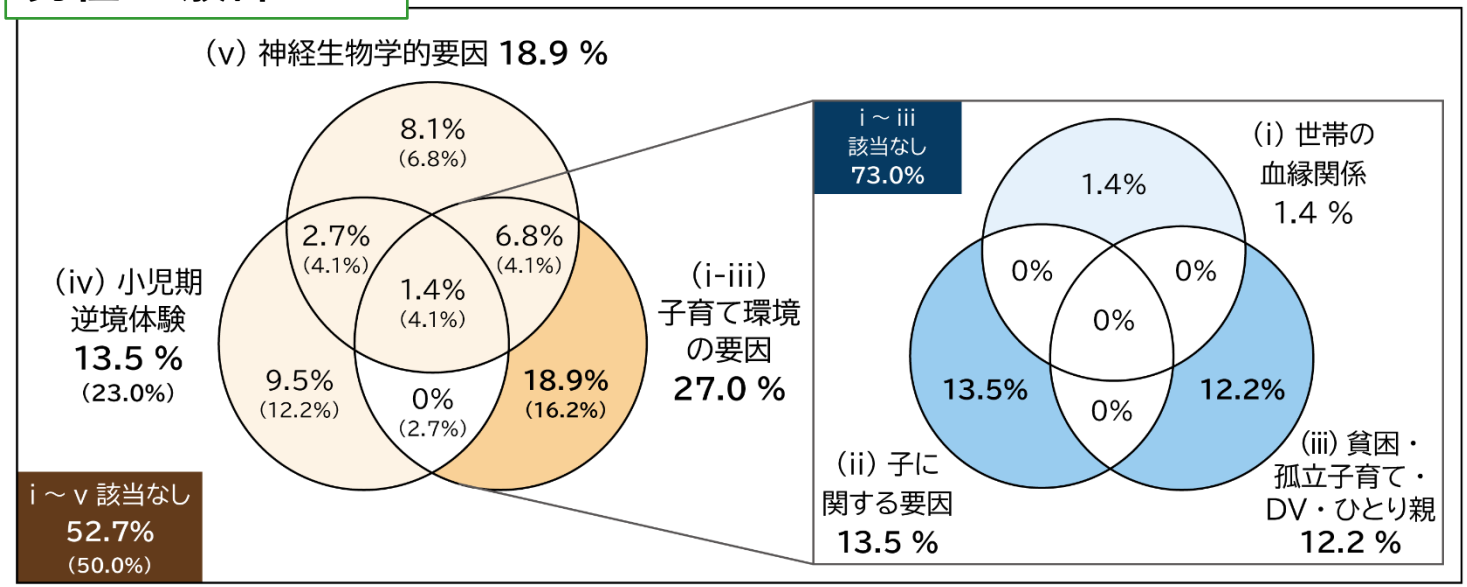
研究成果（受刑者）

男性 事件群 (児童虐待で受刑中の養育者) N = 26

***~*: 一般群との有意差 (Fisher検定)
赤：事件群で高い、青：事件群で低い



男性 一般群 N = 74



各要因の頻度が高く
その結果重複多数

＊逆に、1要因だけで
重度虐待にまで至る
ことは少ない

(i) 世帯の血縁関係：対象児（被害児）と血縁関係のない成人が同居

(ii) 子に関する要因：多胎、4人以上の同時養育、診断のある出生合併症/障害

(iii) 貧困・孤立子育て・DV・ひとり親：生活保護・非課税世帯、低収入（大人2人子2人で300万円以下）、DV被害、ひとり親（当時）、孤立子育てスコアが一般群の平均値+2SD以上

(iv) 小児期逆境体験：ネグレクト・身体的のスコア、および15歳までの実父母の不在が一般群の平均値+2SD以上

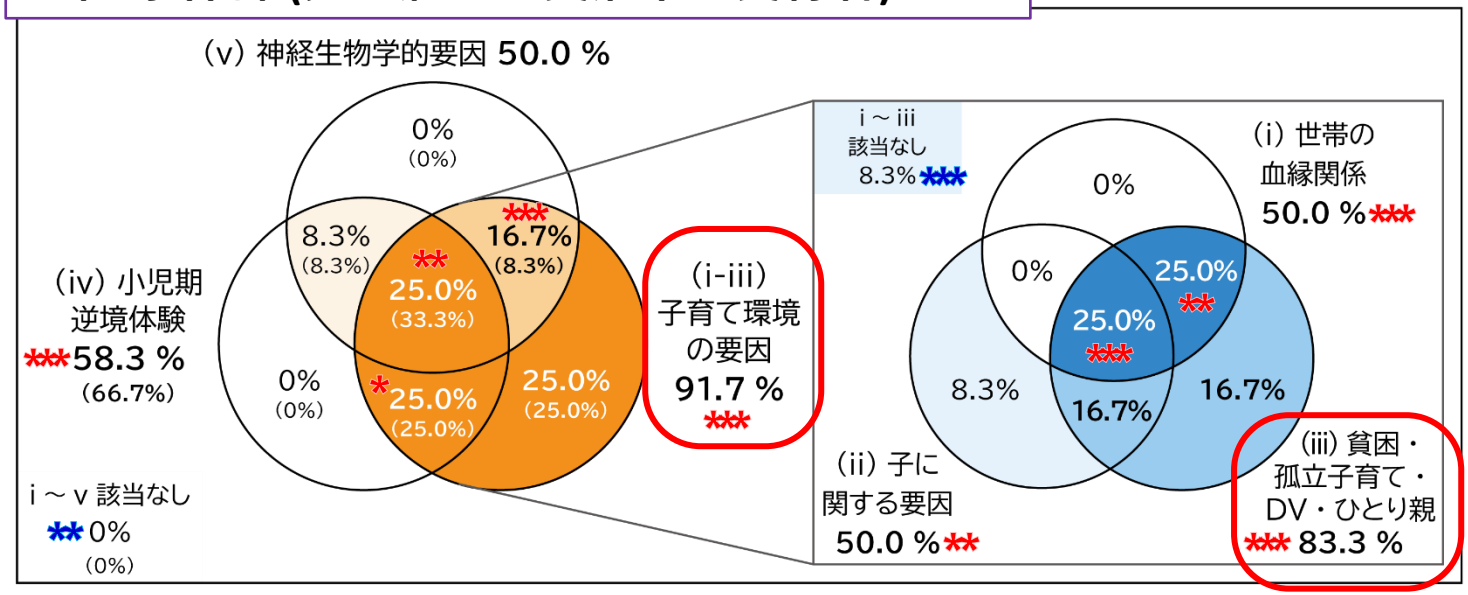
(v) 神経生物学的要因：物質依存症歴、頭部外傷（意識を失う、治療を必要とする程度）歴、診断・薬物療法を受けたメンタルヘルス問題

研究成果（受刑者）

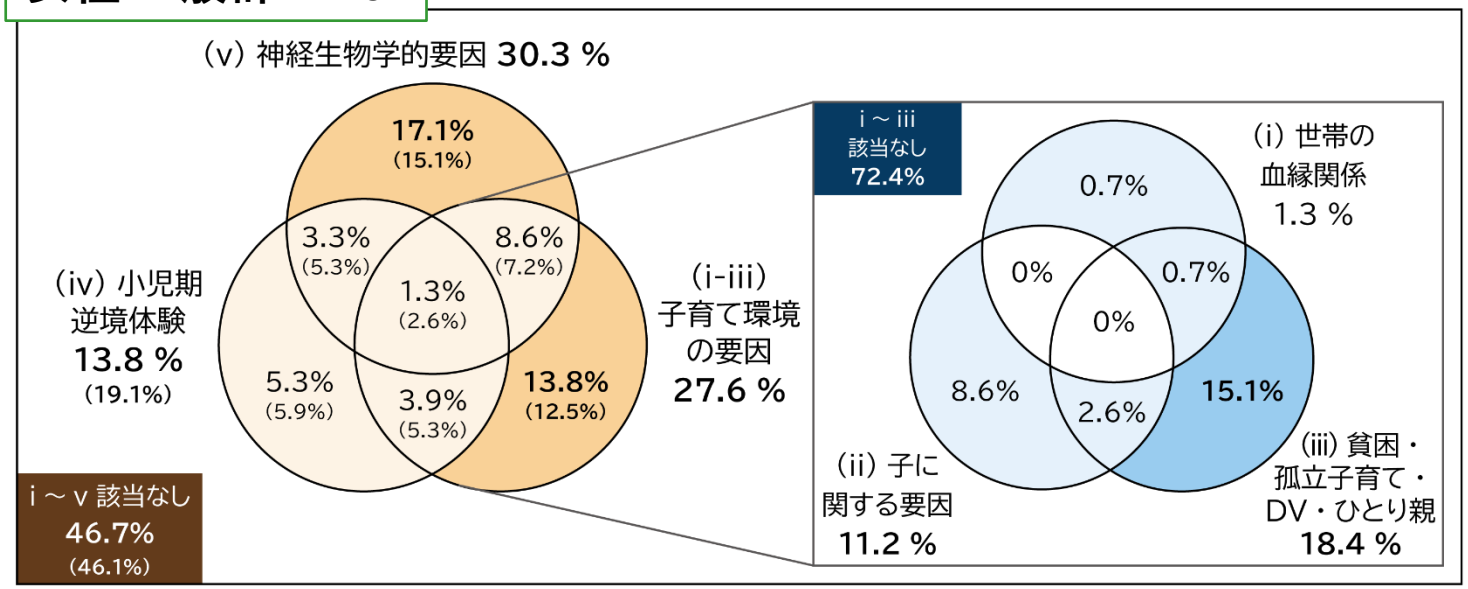
男性と類似、さらに環境因がほぼMust

***~*: 一般群との有意差 (Fisher検定)
赤：事件群で高い、青：事件群で低い

女性 事件群 (児童虐待で受刑中の養育者) N = 12



女性 一般群 N = 152



(i) 世帯の血縁関係：対象児（被害児）と血縁関係のない成人が同居

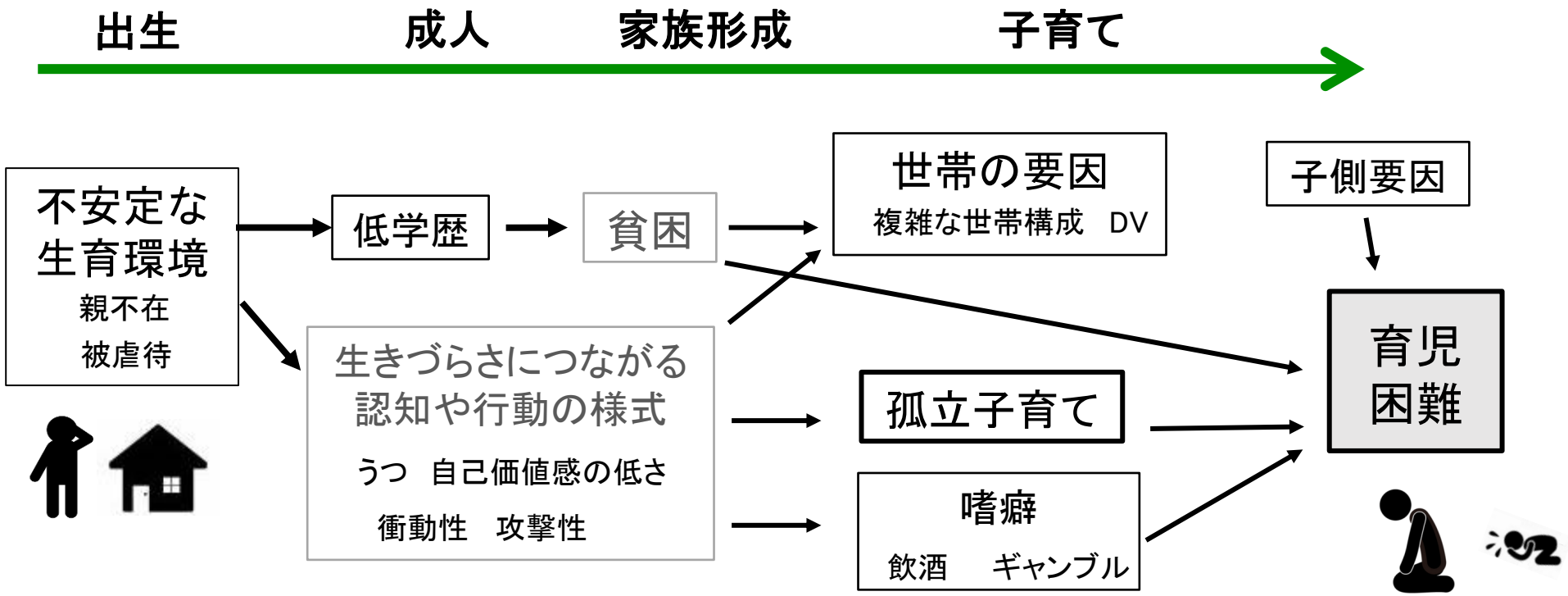
(ii) 子に関する要因：多胎、4人以上の同時養育、診断のある出生合併症/障害

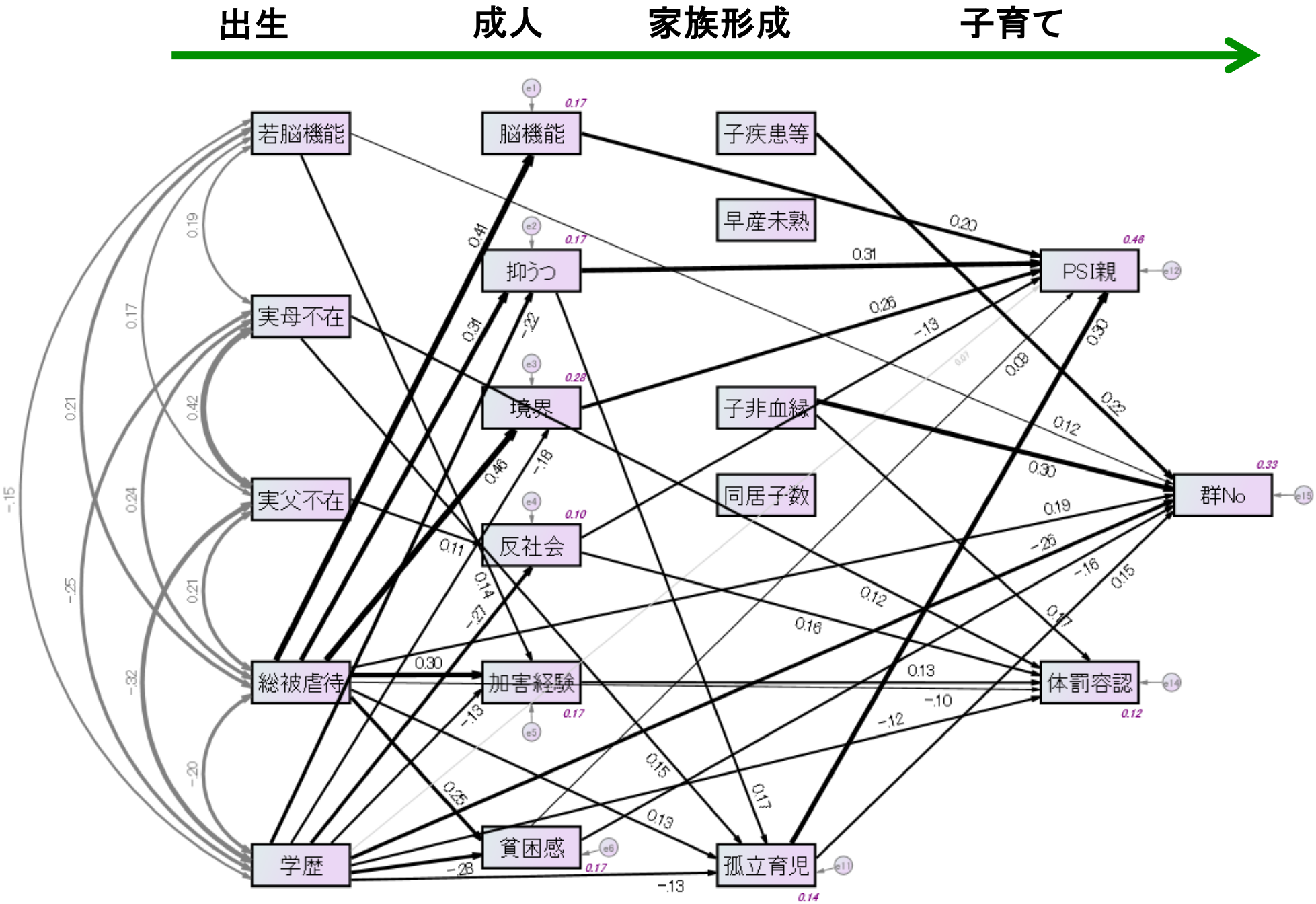
(iii) 貧困・孤立子育て・DV・ひとり親：生活保護・非課税世帯、低収入（大人2人子2人で300万円以下）、DV被害、ひとり親（当時）、孤立子育てスコアが一般群の平均値+2SD以上

(iv) 小児期逆境体験：ネグレクト・身体的のスコア、および15歳までの実父母の不在が一般群の平均値+2SD以上

(v) 神経生物学的要因：物質依存症歴、頭部外傷（意識を失う、治療を必要とする程度）歴、診断・薬物療法を受けたメンタルヘルス問題

生育歴の問題が雪だるま式に生活困難を増やす




出生
成人
家族形成
子育て
若脳機能
実母不在
実父不在
総被虐待
学歴
脳機能
抑うつ
境界
反社会
加害経験
貧困感
孤立育児
子疾患等
早産未熟
子非血縁
同居子数
PSI親
群No
体罰容認

受刑者調査から得られた科学的知見　⇒支援への具体的提言1

＜個別要因＞

- 3分類の中では、子育て当時の環境因の影響が最大　女性でほぼ必発

原因　特に「子育てを手伝ってくれる人がいない（孤立子育て）」が最重要

対策　⇒「現場では育児を孤立させない支援」が効果的

厚労省子ども家庭局職員
「それなら現場で支援
しやすいですね！」

受刑者調査から得られた科学的知見　⇒支援への具体的提言２

＜要因交絡＞

リスクがその後のリスク要因の生起率を高める

原因　⇒　要因重複　（過大な負担）

逆に、重複しなければ事件にまでは至らない

対策　⇒早い段階から要因重複を防ぐ予防的対策が効果的

例：家庭環境不全・被虐待，若年妊娠や非行でも

「能力にみあわない低学歴」を防止する就学支援

法務省矯正局職員「これまで非行少年に就労支援をしてきましたが、就学支援が一層大事なんですね！」

孤立と要因連鎖を防ぐ支援

出生　　成人　　家族形成　　子育て

不安定な生育環境
親不在
被虐待

低学歴

貧困

世帯の要因
複雑な世帯構成　DV

子側要因

生きづらさにつながる認知や行動の様式
うつ　自己価値感の低さ
衝動性　攻撃性

孤立子育て

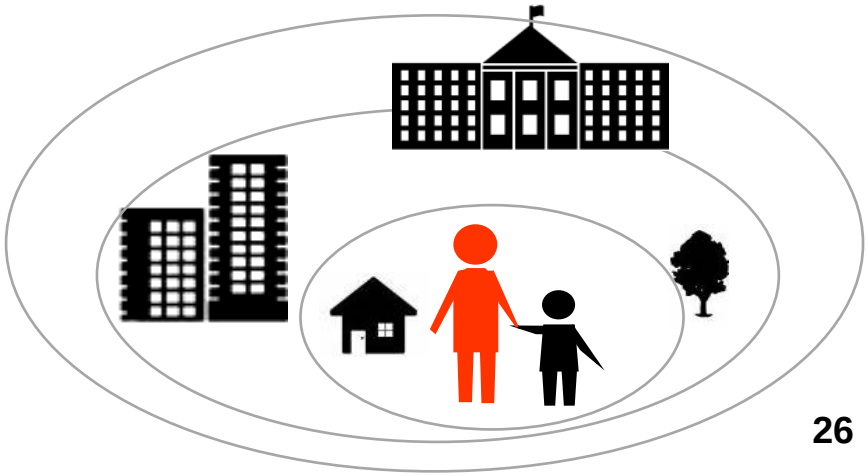
嗜癖
飲酒　ギャンブル

育児困難

要因重複を防ぐ
生後早期からの支援

孤立させない
現場の子育て支援

1. イントロ・哺乳動物の子育てと子の発達
2. 行動神経科学から見た児童虐待
3. 児童虐待事件の要因研究と支援のポイント
4. 現代日本の子育て環境の問題
5. まとめと提言



負担過剰と孤育てが育児困難につながるのは重度虐待だけの話？

RISTEX

⇒　一般家庭対象の大規模調査でも一貫・類似する結果が。

- 慶應家計パネル （中央大学経済学部　阿部正浩教授）
- 子どもの生活実態調査 （阿部彩・落合先生）
- 保育コホート調査 （安梅先生、渡邊先生）
- その他、多数の既存調査

子どもを持つことの負担・コスト

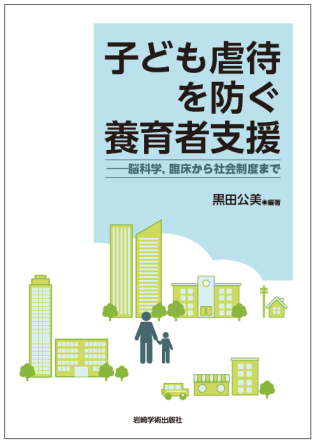
時間

育児・家事

お金

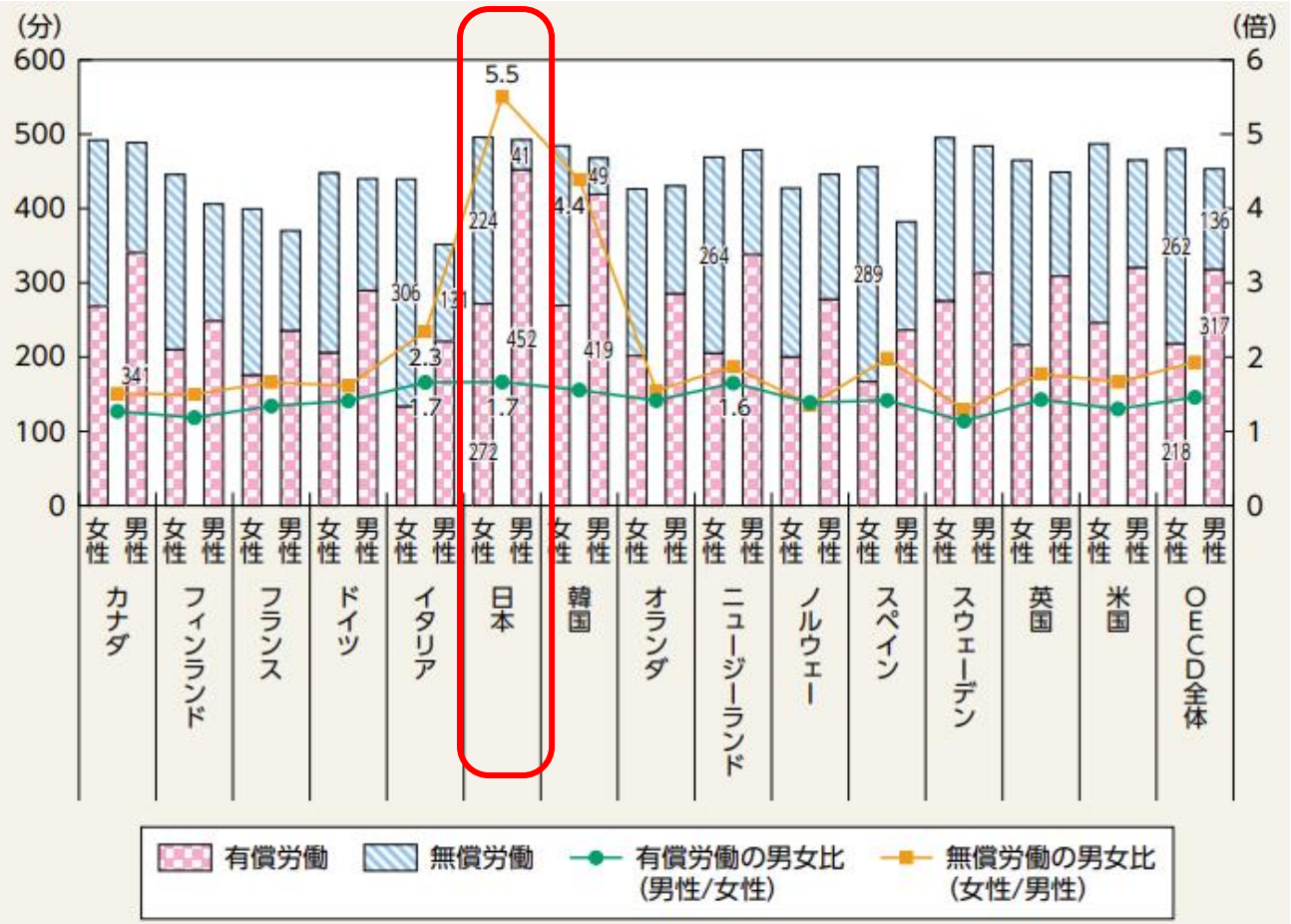
支出増

収入減



総労働時間（有償＋無償）の国際比較

時間



（備考）1．OECD`Balancing paid work, unpaid work and leisure（2020）をもとに，内閣府男女共同参画局にて作成。
2．有償労働は，「paid work or study」に該当する生活時間，無償労働は「unpaid work」に該当する生活時間。
「有償労働」は，「有償労働（すべての仕事）」，「通勤・通学」，「授業や講義・学校での活動等」，「調査・宿題」，「求職活動」，「その他の有償労働・学業関連行動」の時間の合計。
「無償労働」は，「日常の家事」，「買い物」，「世帯員のケア」，「非世帯員のケア」，「ボランティア活動」，「家事関連活動のための移動」，「その他の無償労働」の時間の合計。
3．調査は，2009年～2018年の間に実施している。

日本人の総労働時間の長さ平均がほぼ世界最高
（男8.2hr, 女8.3hr）。

- 男性の有償労働時間は世界最長

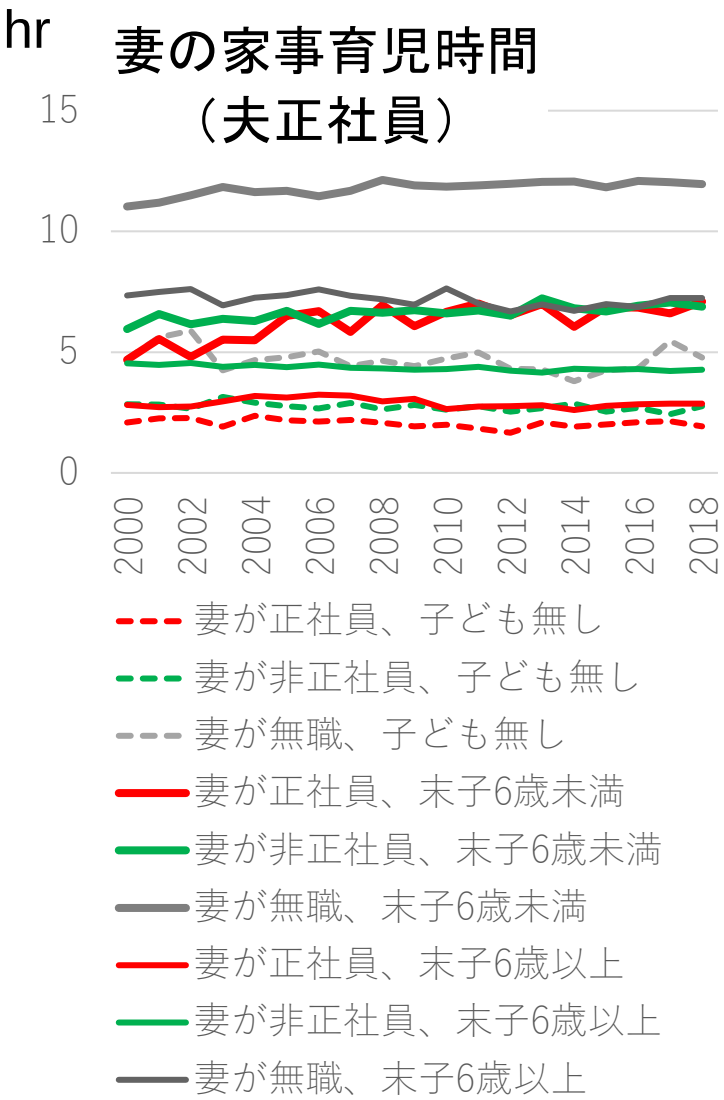
↓

- 男女の無償労働比率最高

男性は育児・家事をするゆとりがない⇒女性が担う

R2男女共同参画白書

育児＋家事（無償労働）の時間的負担



- 末子6歳未満の時、正社員夫婦でも妻は家事育児に7時間を要する。（夫は1.3時間）
- 総労働時間は、夫婦が共働きで末子が6歳未満の場合、男10.1hr, 女10.4hr（社会生活基本調査）

基礎時間（睡眠・食事・入浴等）は10時間弱

余暇時間は1時間以下　（他、受診・移動など）

- 動物や非産業社会の生活を考えると、“非生物学的”な時間的ゆとりのなさ
- 不測の事態には対応できない

研究（慶應家計パネル・大変量解析）

時間

（黒田Policy paper, 図１）

総労働負担　（就労＋家事＋育児＋介護）
配偶者の協力　（家事・育児・介護時間）
は、総合的に収入・学歴等よりも母親の負担感、幸せ感に大きな影響を与える

時間がないことが、妻の幸せ感に直結している。
その中で、配偶者の家事育児時間は幸せ感を上昇させる。
（心理的サポート感？）

家事の負担感	Coef.	Std. Err.	z	P>z	[95% Conf	Interval]
母親の総労働時間	0.074864	0.003925	19.07	0	0.067171	0.08256
配偶者の家事育児時	-0.0314	0.014963	-2.1	0.036	-0.06073	-0.0021
母親の最終学歴(高校リファレス)						
中学校	0.128936	0.066876	1.93	0.054	-0.00214	0.26001
専門・専修(高校卒していない)	-0.13701	0.137923	-0.99	0.321	-0.40733	0.13332
専門・専修(高校卒)	0.032636	0.036052	0.91	0.365	-0.03802	0.1033
短大・高専	-0.03574	0.033191	-1.08	0.282	-0.10079	0.02932
大学(4年制)	0.010668	0.035625	0.3	0.765	-0.05916	0.08049
大学院	-0.16203	0.122203	-1.33	0.185	-0.40155	0.07748
世帯所得	7.16E-05	6.51E-05	1.1	0.271	-5.6E-05	0.0002

幸せ感	Coef.	Std. Err.	z	P>z	[95% Conf	Interval]
母親の総労働時間	-0.01989	0.002284	-8.71	0	-0.02437	-0.01541
配偶者の家事育児時	0.100907	0.009063	11.13	0	0.083144	0.118671
母親の最終学歴(高校リファレス)						
中学校	-0.34979	0.036512	-9.58	0	-0.42135	-0.27823
専門・専修(高校卒していない)	0.060227	0.067749	0.89	0.374	-0.07256	0.193012
専門・専修(高校卒)	0.074472	0.020936	3.56	0	0.033437	0.115507
短大・高専	0.188899	0.019472	9.7	0	0.150733	0.227064
大学(4年制)	0.308236	0.023076	13.36	0	0.263007	0.353465
大学院	0.538308	0.093331	5.77	0	0.355382	0.721233
世帯所得	-7.1E-05	3.12E-05	-2.28	0.022	-0.00013	-1E-05

お金

日本の子育てにかかる費用

親が支出する子育て費用　（万円／年）

	年	年間養育費	教育費公立	教育費私立	公立年間	児童手当	
未就園	3	81.6			81.6	18	
保・幼	3	114.3	16.5	30.9	130.8	12	
小学生	6	84.7	35.3	166.7	120	12	
中学生	3	97.6	53.9	143.6	151.5	12	
高校生	3	97.6	51.3	105.4	148.9		
大学生	4	70.5	61.6	99.1	132.1		
	高校まで	1681.5	576.9	1839.9			
	大学まで	1963.5	823.3	2236.3			
	高卒・すべて公立で		**総額2258.4**			**198**	8.80%
	大卒・すべて公立で		**総額2786.8**			**198**	7.20%

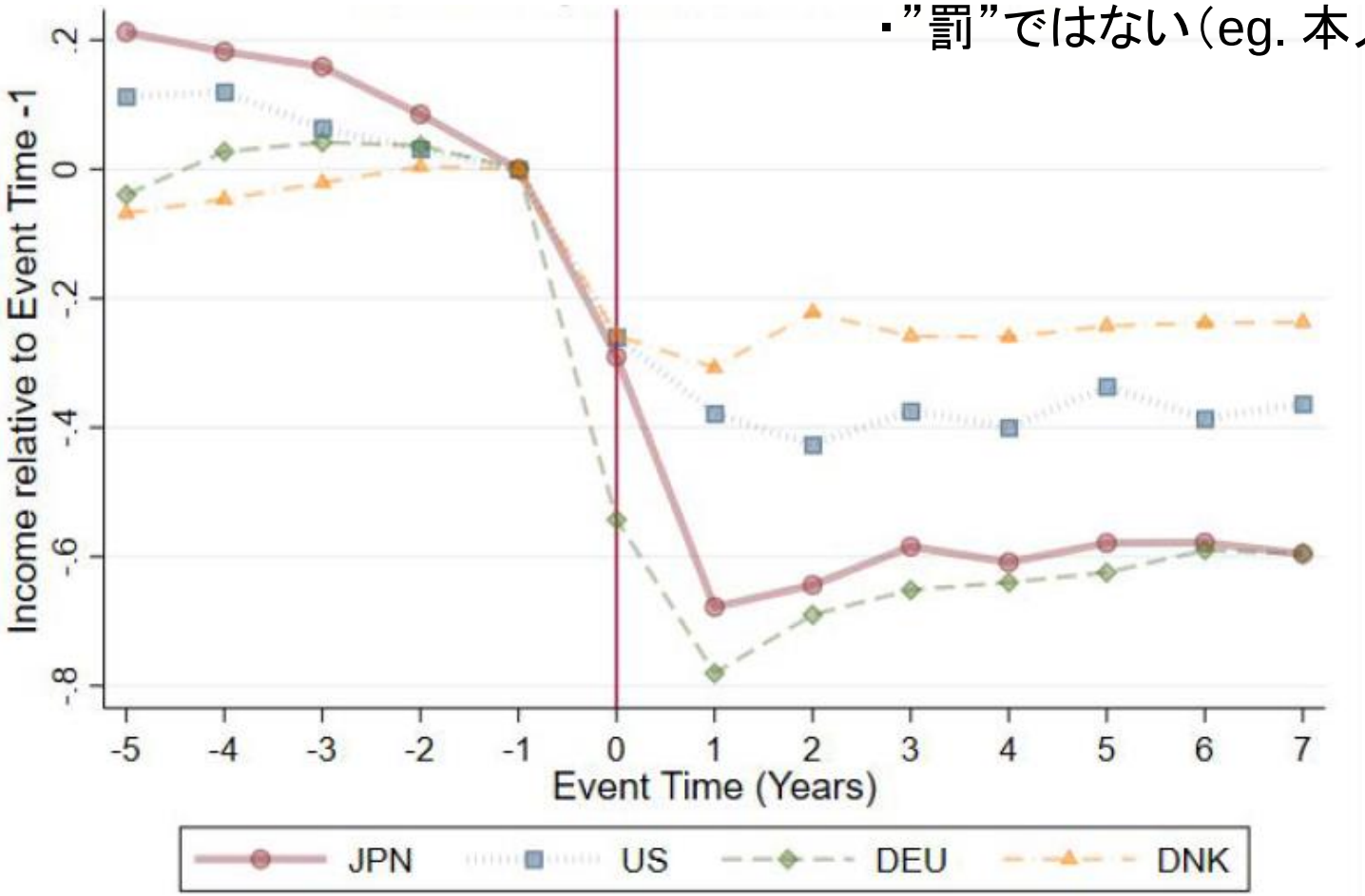
子どもが育つのにかかるお金は公私合計で年200万円。日本では公費負担が半分以下.
育児にかかる家計負担は年平均125万円。R3, 世帯の平均可処分所得は588万。
児童手当は誤差の範囲。

養育費：内閣府「インターネットによる子育て費用に関する調査」（H21内閣府）
教育費：文部科学省「国公私立大学の授業料等の推移」2021　入学金を年平均で加算
文部科学省「子供の学習費調査」R3

お金

第1子出産に関連して日本では収入が60%以上減少（チャイルド・ペナルティ）

・完全に男女平等、同一労働同一賃金でも発生
・”罰”ではない（eg. 本人希望退職）



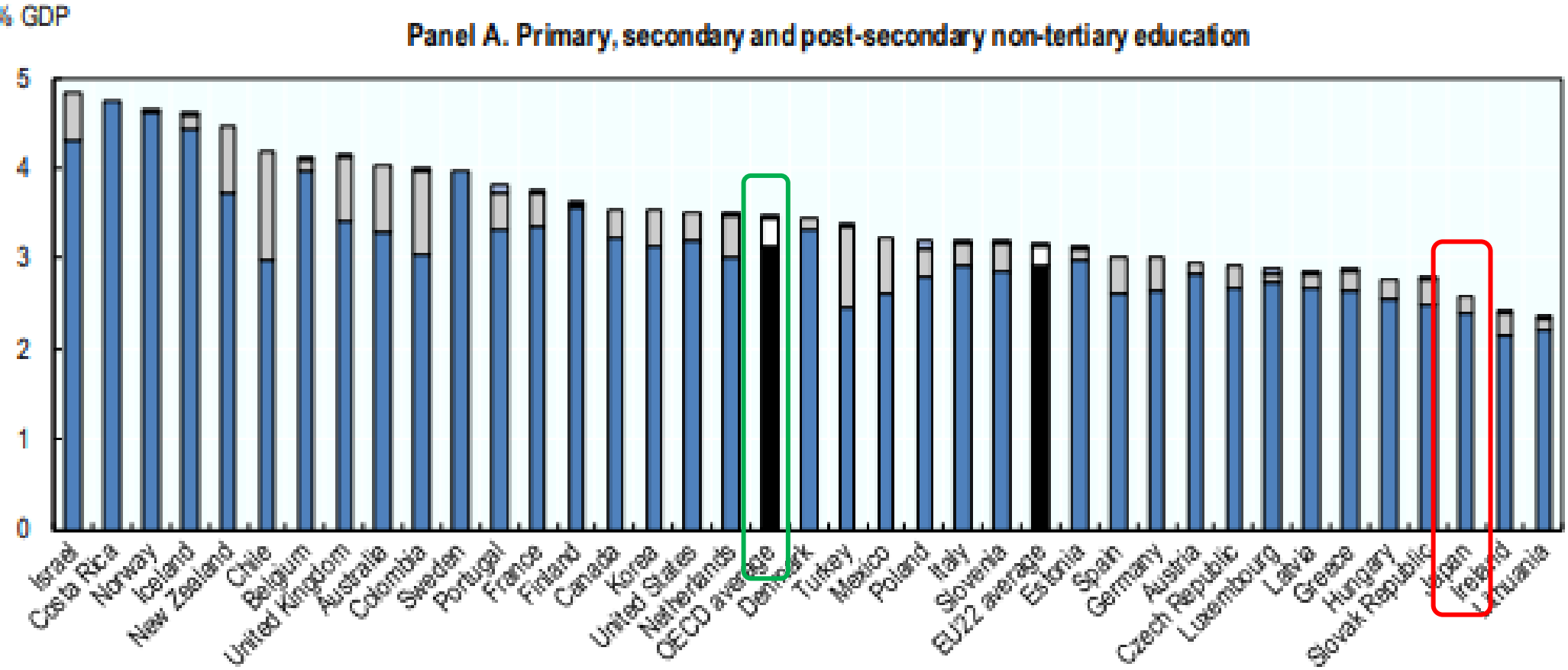
データの期間：US＝1968～2018；DEU＝1990～2016；DNK＝1980～2013

(Kleven, 2019;
古村典洋, 2021)

日本の子育ての公的支援は少ない

OECDの37か国中、日本は家族政策への政府支出の対GDP比：**26**位

初等・中等教育への政府支出の対GDP比：**35**位



OECD family database
https://www.oecd.org/els/family/database.htm

お金

日本の子育て経済的負担は要因重複に弱い

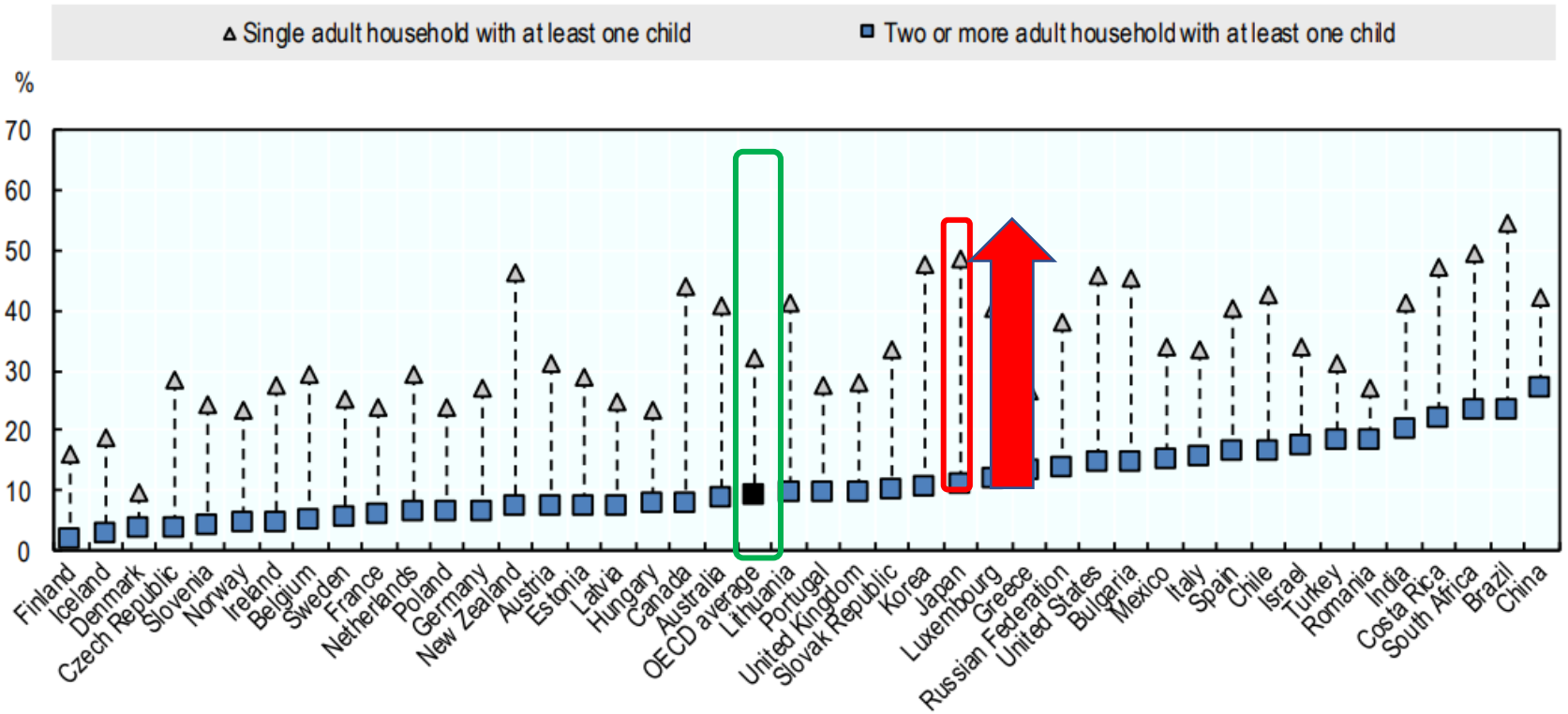
子育て世帯の相対貧困率：18位　（OECD平均より大）

⇒ひとり親の貧困率：3位！

明らかにひとり親への支援が足りていない。

Chart CO2.2.C. **Poverty rates in households with children by household type, 2018 or latest available year**

Relative income poverty rates (%), individuals in working-age households with at least one child, by type of household



OECD family database

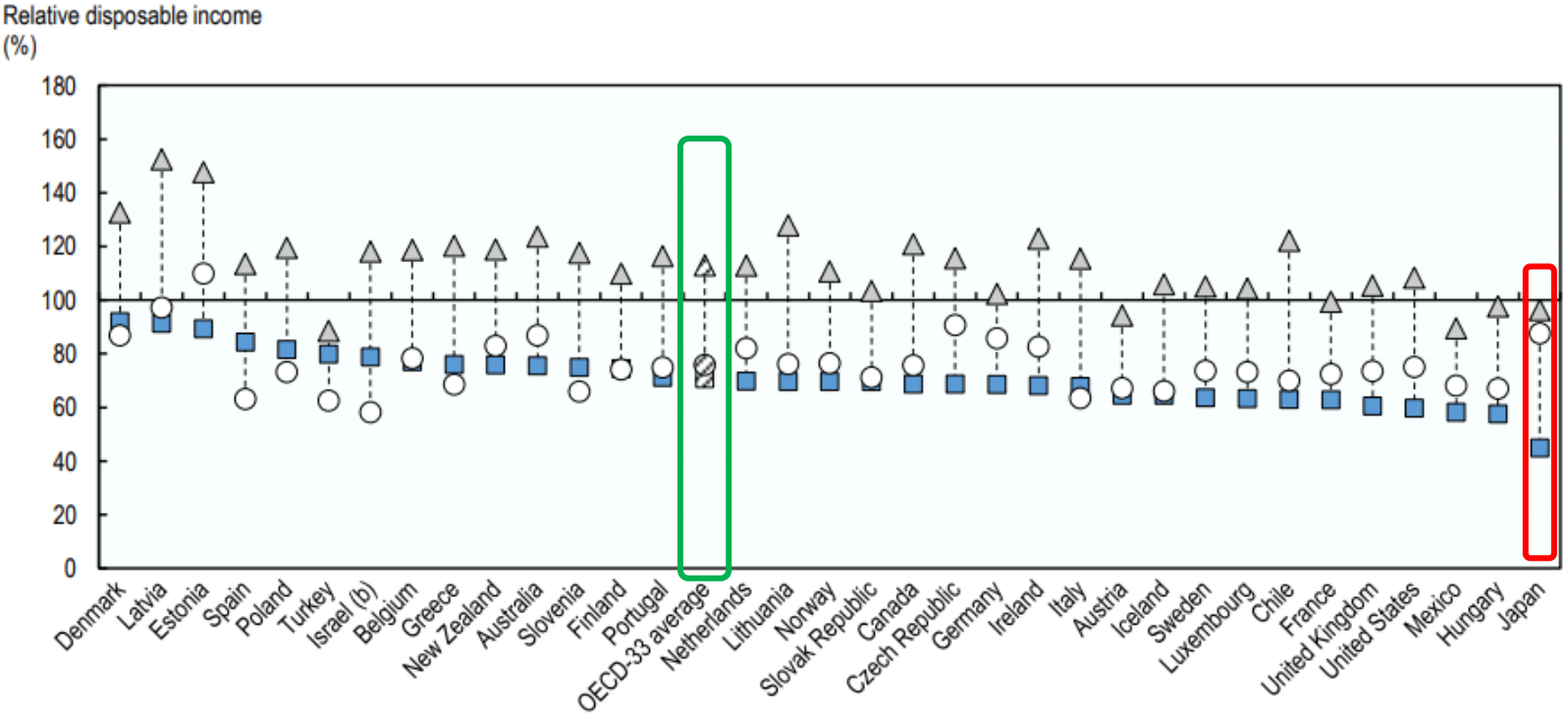
お金

日本では出産が経済リスク

日本では子を持つと、共働きしても独身より貧しくなる！
さらに一人親になると相対貧困度がOECDで最下位に！！
支援不足、社会システムの問題。

家計の社会決定（SDH）課題

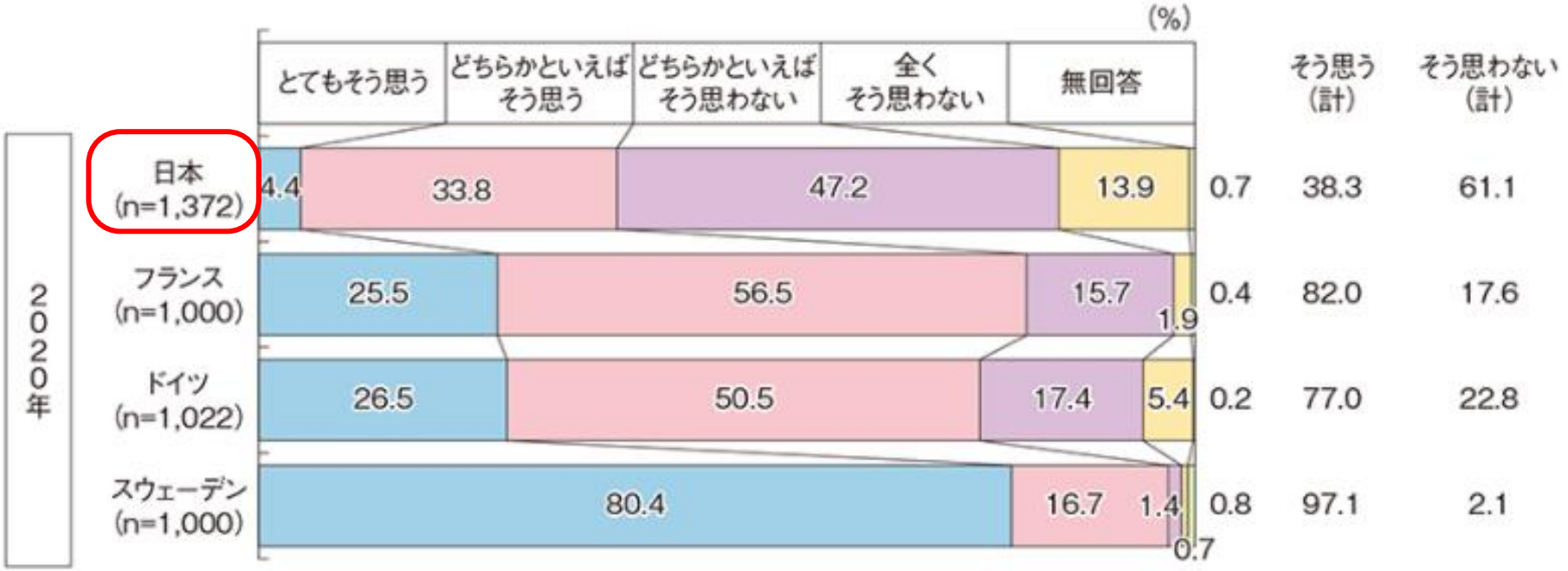
独身労働世帯に対する可処分所得の比率



▲子あり共働き
○子あり片働き
■一人親

OECD family database
https://www.oecd.org/els/family/database.htm

国民も日本が子どもを産み育てやすい国ではないことを感じ取っている。



少子化社会対策白書（内閣府）, 2021

- 夫婦の予定子ども数が理想子ども数を下回る理由として最多の意見は

「子育てや教育にお金がかかりすぎる」 ⇒経済的コストが子どもを持つ意欲に直結！

（非婚化にも関係？）

一般子育て環境の要因分析まとめと政策提言

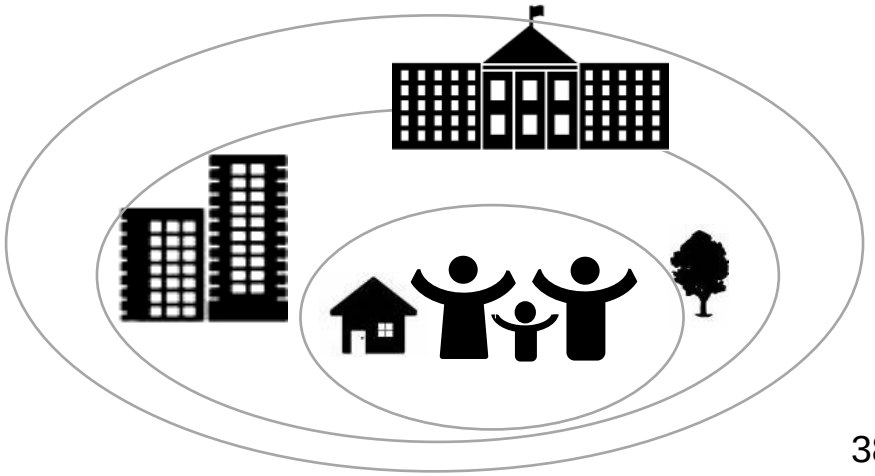
- 国際的にみて、日本の子育ては時間とお金という2つの面で家庭の負担が大きい。

- 国際的に、政府の支出面での子育て支援が少ない。また一人親への支援も極端に低い。
  （ほかにも、民法877条　扶養義務　などもあるが割愛）

⇒「子どもの生み育てやすさ実感」と希望挙児数が低い

孤立育児と過剰な負担　⇒重度虐待の要因分析と、意外にも類似していた

1. イントロ・哺乳動物の子育てと子の発達
2. 行動神経科学から見た児童虐待
3. 児童虐待事件の要因研究と支援のポイント
4. 現代日本の子育て環境の問題
5. まとめと提言



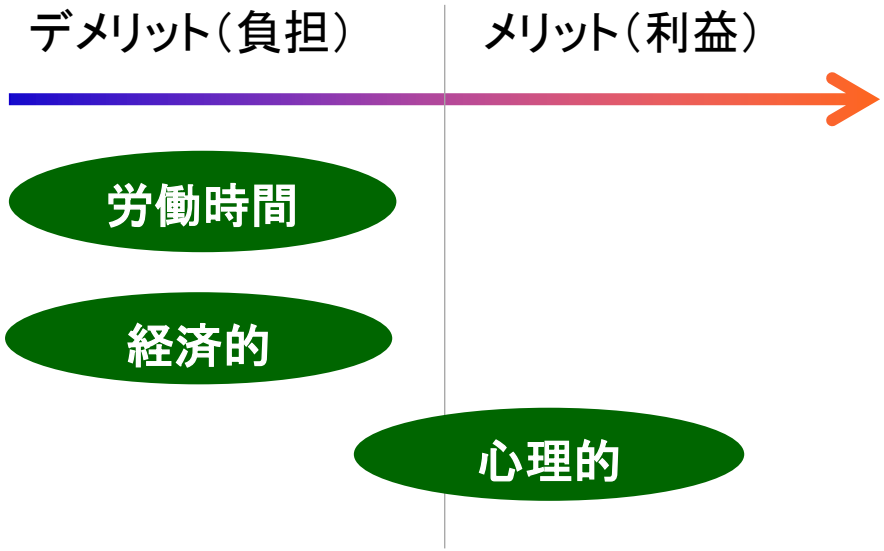
まとめ：子どもの哺乳類的性質の科学的理解

- 子どもは2億年の哺乳類の歴史に適応している。そのため、現代的視点からの効率化には限界がある
- 子どもには親（特定の養育者）との関係が必要
- 子どもは親の感情を鋭敏に感じ取る⇒親の幸せを抜きに、子どもだけ幸せにはできない

⇒親の負担のしわ寄せは、必ず子どもに来る。

親も親であり現代人である以前に、生身の哺乳動物です

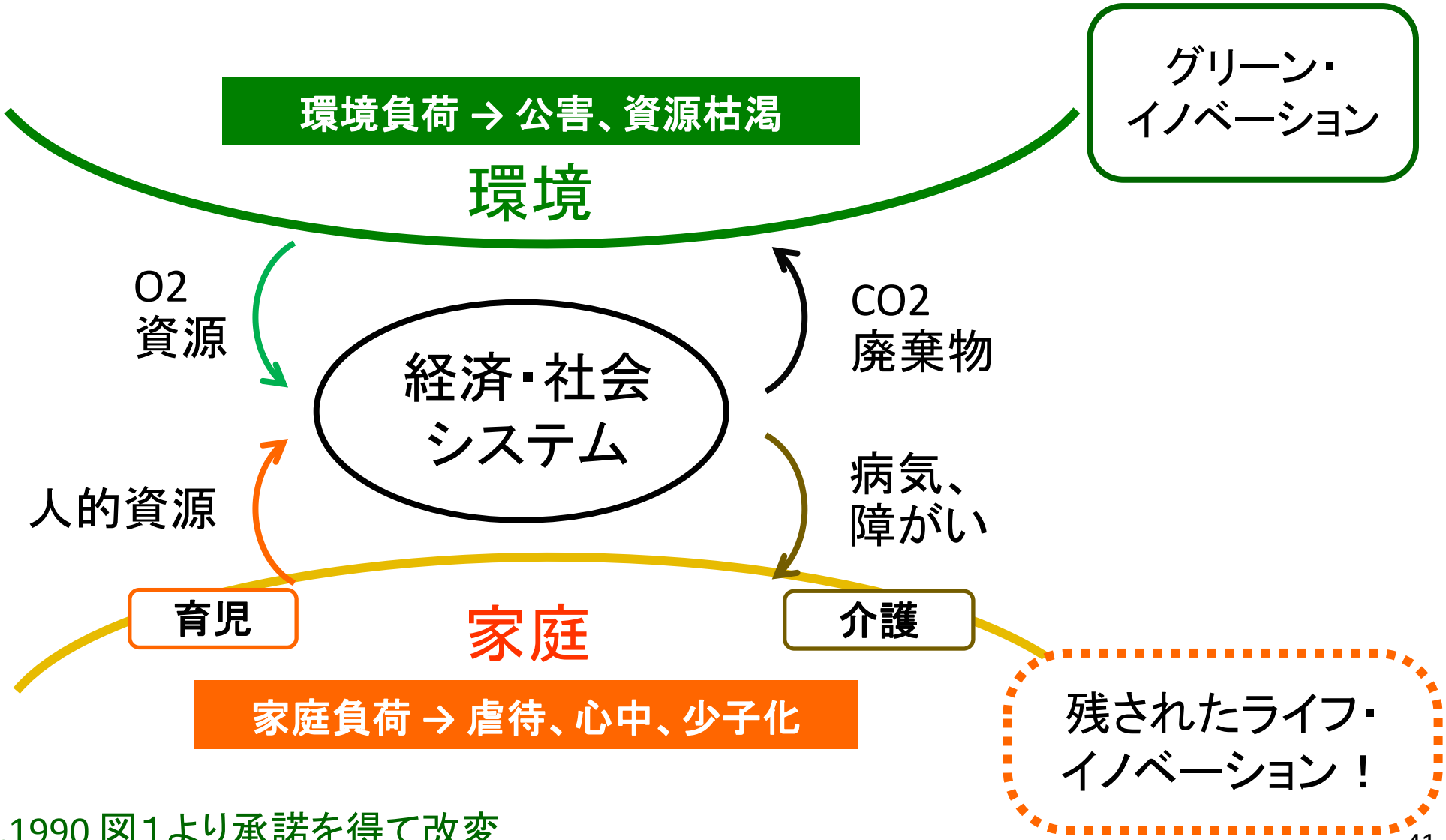
- 誰だって何年もつづく時間と経済的な負担は負いたくない。
- 負担過剰のままがんばると、誰でもうつになりうる。
- 子どもをもつ経済的・労働時間的メリットは現代ではほぼない
- 心理的メリットはペットや他の自己実現活動で代替可能



逆に、負担を減らす家族政策の伸びしろは国際的に大きいはず！

より広い視点：

出産・育児という生物学的営み（無償労働）の本質的価値の理解



上野,1990 図1より承諾を得て改変